



地域医療連携ニュース

発行：兵庫県立加古川医療センター 〒675-8555 加古川市神野町神野 203 番地 <http://www.kenkako.jp/>
TEL：079-497-7000(代表) TEL：079-497-7011(地域医療連携部直通) FAX：079-438-3756(地域医療連携部直通)

も	第11回県かこ県民フォーラムを開催しました…… 1	放射線科…………… 5
く	肝疾患センター…………… 2	消化器内科…………… 6
じ	脳神経内科…………… 3	リウマチ膠原病センター…………… 7
	皮膚科…………… 4	外来診療表…………… 8

〈開院10周年記念事業〉

第11回 県かこ県民フォーラムを開催しました

テーマ：メタボと消化器がん～あなたの生活習慣・食習慣大丈夫ですか?～

2019年9月28日、加古川市民会館にて、開院10周年記念事業として第11回県かこ県民フォーラムを開催しました。100余名の参加があり、メタボと消化器がんをテーマとして、医師・看護師・管理栄養士あわせて4名が講演しました。また、会場では、骨密度測定や血管年齢測定等を行い、大変盛況に終えることができました。



メタボと消化器がん 内視鏡センター長兼消化器内科部長 塚本喜雄

メタボと肥満は、様々な病気の原因になり、がんの発症率も2～4倍に高くなること、そのためまずは予防と改善を考えるという内容でした。次に、早期発見・早期治療として、大腸がん、胃がん、食道がんでの内視鏡検査や粘膜切除術・切開剥離術の動画を交えながら説明が行われ、「リスクの高い方はがん検診を受けましょう」、「特に大腸・胃・食道が心配な方は内視鏡を検討し、早期発見早期治療を心がけましょう」という内容でした。



毎年受けたくなる優しい内視鏡検査 外来看護師 七村恵美

胃カメラ・大腸カメラの苦痛を和らげるために、検査前のポイント・検査中の体位の工夫など、検査を受ける方も一緒に工夫できる内容でした。また、検査前に迷いがちな「いつもの内服薬をどうしたらよいか」ということも説明がありました。

メタボと肝臓がん～脂肪肝といわれたら～ 診療部長兼消化器内科部長 廣畑成也

脂肪肝にはアルコール性と非アルコール性があり、最近注目されているのは、非アルコール性脂肪肝炎(NASH)で肝硬変・肝がんにつながる原因として増加してきているということでした。非アルコール性脂肪性肝疾患に対する治療は、食事・運動療法が基本になります。何より大切なことはあなたが長期的に、食事・運動の見直しを続けることという説明がありました。

あなたの食生活大丈夫?!メタボやがんの予防になる食事とは? 栄養管理課長 高橋千恵

内臓脂肪がたまりやすい生活パターンの紹介があり、生活習慣が積み重なったメタボリックシンドロームという話の後、がんを予防する要因・リスク要因を見たうえで、がんを防ぐための新12か条の説明がありました。バランスの取れた食生活や運動の継続のためには、自身で食習慣や体型をチェックし、改善点に気づき行動に移していきましょうという内容でした。

肝疾患センター

副院長兼肝疾患センター長 尹 聖哲

当院はこれまで東播磨圏域における中核病院として幅広く診療を行ってきましたが、そのなかでも肝疾患については特に力を注いできました。平成20年に肝疾患専門医療機関に指定され、肝炎・肝癌診療においては圏域の中心的な役割を担っています。平成21年から連携パスを用いて圏域を越えた病病・病診連携を広く展開し、平成29年には抗ウイルス療法を受けたC型肝炎患者さんが延べ1000名を超えました。



また、急性肝炎・急性肝不全（劇症肝炎ほか）については、保存的内科治療のみならず肝移植の適否を決定するための移植待機病院としていち早く指定され、救命救急センター、消化器内科が連携して、広域の医療機関から患者を受け入れ、集中治療を行っています。肝移植に際しては、ドクターヘリによる超高速な患者搬送を行ってきました。このため、現在は、圏域にとどまらず兵庫県西部からも数多くの症例のご相談やご紹介をいただいています。また、患者さんには院内の肝臓病教室や地域のさまざまなセミナーを通して、肝臓という臓器に親しみ、その働きや病気に対する知識および理解を深めていただくことで、早期発見とより良い治療、さらには予防にも努めてまいりました。

このような地域における病院の役割と診療内容を明確にし、院内においては関係診療科と緊密かつ円滑な連携を行うため、また院外に対してはより迅速かつ細やかな病診・病病連携を行うため、本年4月に「肝疾患センター」を設置しました。ここで対象とする疾患は肝臓病全般です。WHOは2030年までにこの地球上のウイルス性肝炎を撲滅すると表明しました。また近年増加しつつある脂肪肝、脂肪肝炎については肝癌予防のため、疾患の発見と適確な診断・生活習慣の介入がきわめて重要とされています。隠れた病気・見逃されていた病気を見つけ出し、肝臓病の診断や治療はもとより予防も含めた幅広い取組みを念頭に展開していきます。そのためには、患者さんへの情報発信や気軽に相談にも応じる窓口も必要と考え、現在検討を進めています。これまで以上に病診連携・病病連携を深め、地域の先生方および患者さんたちと一緒に病気に取り組むセンターを目指していきますので、今後ともよろしく願いいたします。



脳神経内科

脳神経内科部長 **木村 健一**

現在、当科は常勤医 1 名と非常勤医 1 名を中心として診療にあたっております。加古川など東播磨地域でも脳神経内科医数が徐々に増加し、脳神経内科の認知度も増してきています。脳神経内科は脳、脊髄、末梢神経、筋肉に起こる病気の診断および内科的治療を行う診療科です。頭痛、脱力、ふるえ、しびれといったよくある症状を対象とします。気分や精神的な問題は心療内科や精神科が専門的に診療されます。

スタッフ



木村 健一
(平成 5 年卒)



辻 佑木生
(平成 21 年卒)
(非常勤)

認定施設

日本神経学会准教育施設

主な対象疾患

- ① 脳血管障害：脳梗塞、一過性脳虚血発作や脳出血などがあり、脳神経外科とも連携し診療します。
- ② 神経変性疾患：パーキンソン病、脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症、アルツハイマー病など神経学的評価治療を行います。
- ③ 神経免疫疾患：多発性硬化症や重症筋無力症など、免疫の異常で起こる病気でステロイドなど免疫抑制剤による治療を行います。
- ④ 神経感染症：脳炎、髄膜炎など、抗菌薬などで治療を行います。
- ⑤ 筋疾患：筋ジストロフィーや筋炎などがあり、大学病院等とも連携し筋電図や筋生検にて診断します。
- ⑥ 末梢神経疾患：神経伝導検査などにて診断し、遺伝性のものもありますが、ギランバレー症候群など免疫の異常で起こるものは免疫グロブリン療法など免疫療法を行います。
- ⑦ 発作性疾患：てんかん、片頭痛など脳波や MRI などにて診断し、各病型に応じた薬物治療を行います。
- ⑧ その他内科疾患に伴う神経症状に対し診断、治療を行います。

脳神経内科は、認知症、脳卒中、てんかんなど頻度の高い疾患も対象とします。当院の主な診療機能の一つに神経難病医療の提供を掲げており、当科では、パーキンソン病、脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症、多発性硬化症、重症筋無力症など、神経難病の診療向上に努めていきたいと考えています。今後とも宜しく願い申し上げます。

皮膚科

地域医療連携部長兼皮膚科部長 足立厚子

スタッフ 常勤医：足立厚子部長☆（アレルギー・膠原病・乾癬・水疱症）、竹内千尋医師（悪性腫瘍・皮膚外科、皮膚科一般）、増田泰之医師（悪性腫瘍・皮膚外科、皮膚科一般）、八木田隼啓専攻医、梅村薫専攻医。非常勤医（外来のみ）：高井佳恵医師

週間予定 初診の外来は、月～金曜日の午前。
受付は午前 11 時まで、午後は再診予約のみ。
アレルギー外来＝月曜再診予約のみ、アレルギー外来は午前診察の上予約します。

認定施設 日本皮膚科学会教育認定施設。日本アレルギー学会認定教育施設。日本癌治療学会教育施設。生物学的製剤認定施設。

医療設備 Waldmann 紫外線治療器（全身型・部分型 UVA narrow band UVB）、エキシマライト（ウシオ電機）、イオンフォレーゼ、デルマトスコープ、炭酸ガスレーザー、Q スイッチアレックレーザー、スポット型近赤外線治療器：スーパーライザー、電子線照射装置、静脈還流圧測定装置、センチネルリンパ節生検用γシンチカメラ



各疾患に対する治療方針

- ★アレルギー疾患＝じんま疹、金属アレルギー、アナフィラキシー、重症型薬疹、ラテックスアレルギー、食物アレルギー、口腔アレルギー症候群について、原因成分まで特定し生活食事指導、代替品紹介をしています。蜂アレルギーや一部の薬物アレルギーには減感作治療も施行しています。救命用自己注射用キット（エピペン）の処方が可能です。難治性慢性蕁麻疹にはゾレア、難治性アトピー性皮膚炎にはデュピクセントを使用し、軽快する患者さんを多く診させていただいています。
- ★膠原病、血管炎、類天疱瘡、天疱瘡などの自己免疫疾患、ベーチェット病＝当地域はこれらの疾患に悩む患者さんが多発しています。臨床・病理により迅速な診断・精査し、入院も含めた加療・長期経過観察をしています。
- ★乾癬・膿疱性乾癬・類乾癬にはオクソラレン内服全身光線治療、全身ナローバンド照射、オテズラ内服、多種類の生物学的製剤も使用しています。乾癬は生活習慣病に伴う全身疾患と位置づけられています。個々の患者さんの生活や皮膚および全身状態に合わせ、各々の治療法に伴う副作用にも注意しながら適切な治療をころがけています。
- ★皮膚悪性リンパ腫＝病型分類、病期にあわせて全身光線療法、化学療法、放射線療法をしています。
- ★皮膚悪性腫瘍（基底細胞癌、ボーエン病、悪性黒色腫、乳房外パジェット病、悪性軟部腫瘍など）＝外科的手術、放射線治療、化学療法により集学的治療をしています。局所全摘術のみならずセンチネルリンパ節生検やリンパ節郭清も施行しています。
- ★皮膚良性腫瘍＝外科的手術、場合によっては、炭酸ガスレーザーにより治療し、特に整容面の改善にも心がけています。
- ★熱傷＝当院救急科、形成外科とともに重度熱傷まで対応が可能です。
- ★重度感染症・壊死性筋膜炎など＝必要なときには当院救急科の全身管理を受けながら対応が可能です。
- ★陥入爪甲＝フェノール法や人工爪、形状記憶合金で加療しています。
- ★脱毛症＝紫外線療法・SADBE にて加療しています。
- ★美容＝ケミカルピーリングその他の指導をしています。
- ★下肢静脈瘤＝超音波診断の上、弾性ストッキングの指導、適応例には静脈硬化療法をしています。
- ★糖尿病壊疽などの虚血肢＝難治例が多いのですが、リハビリ科・形成外科などとチーム医療にて様々な方法を用いて血流を確認し、QOL を高めるための治療をしています。

まとめ 当院皮膚科は 1960 年の開設以来 50 年以上東播磨地域の中核施設としての機能を果たしてきました。アレルギー・膠原病・乾癬・重症感染症・重症虚血肢・熱傷から皮膚悪性腫瘍まで幅広く、かつそれぞれの疾患について専門的な診断・治療を行っています。スタッフ・医療機器・設備が充実しているうえ、ベッド数が 14 床と多く、外来加療困難例には入院加療を施行しています。悪性腫瘍診療や手術にも力を入れています。どうぞご利用ください。

研究会の御案内

加古川医師会の共催をいただき、毎年 2 回の東播磨皮膚科研究会を当院講堂にて木曜日夕方に開催しています。また、当院褥瘡対策委員会主催の東播磨皮膚・創傷ケア研究会も、加古川医師会、播磨薬剤師会共催にて当院講堂にて毎年開催し、地域の医師、看護師、薬剤師、介護士、ケースワーカーの方々を招待しています。来年 2 月 13 日木曜日に東播磨皮膚・創傷ケア研究会を開催します。また来年 3 月 20 日には東播磨皮膚科研究会を開催しますが、岐阜大学皮膚科教授清島真理子教授を招き、講演を予定しています。近くなりましたらご案内を差し上げますので、多数の御参加をお待ちしています。

放射線科

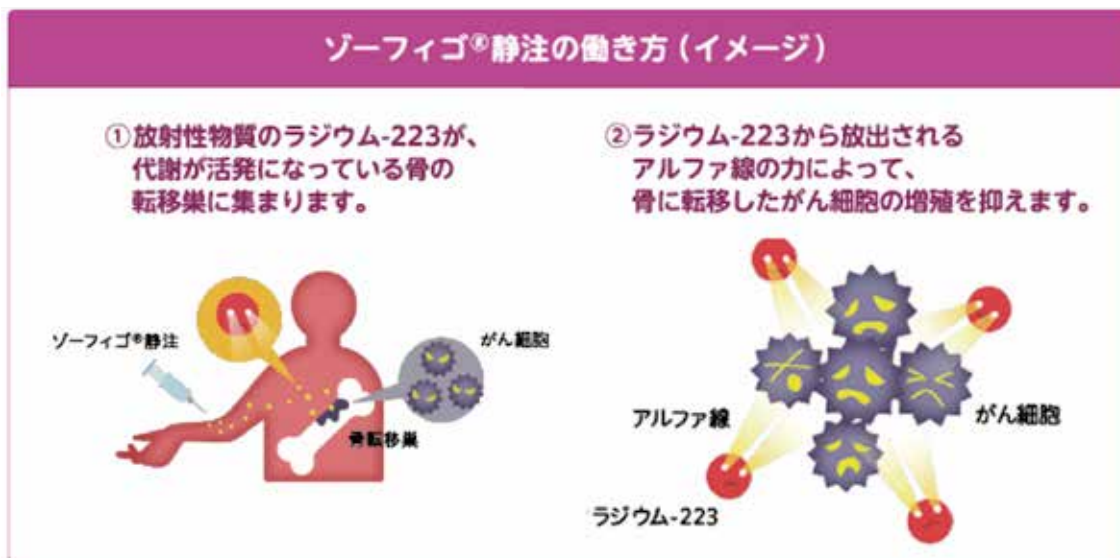
副院長兼放射線科部長 酒井英郎

去勢抵抗性前立腺癌（CRPC）の骨転移治療（ゾーフィゴ[®]治療）

ゾーフィゴ[®] 静注には、アルファ（ α ）線と呼ばれる放射線を出す「ラジウム-223」という放射性物質が含まれています。このラジウム-223には、骨の成分であるカルシウムと同じように骨に集まりやすい性質があります。注射で体内に送られたゾーフィゴは、代謝が活発になっているがんの骨転移巣に多く運ばれます。そこから放出されるアルファ線が、骨に転移したがん細胞の増殖を抑えます。

このような作用により、骨転移した前立腺がんに対して治療効果が期待できる薬ですが、このお薬は前立腺がんの中でも「去勢抵抗性前立腺癌、CRPC」に対して適用となります。この去勢抵抗性前立腺がんとは、ホルモン療法や手術により、男性ホルモンの分泌が抑えられている状態にもかかわらず、増悪する前立腺がんのことを言います。

ゾーフィゴの注射は外来で可能ですが、月1回（4週間隔）、最大6回の注射を行う治療となります。この他、ゾーフィゴの適用にはいくつかの条件がございますので、当センターの放射線科医師もしくは泌尿器科医師にご相談ください。



検査・放射線部（放射線）からお知らせ

放射線部では、①CT検査 ②MRI検査 ③核医学検査 ④骨密度測定検査を受け付けています。現在、検査予約の待ち日数はございません。予約の受付時間は、平日18時30分まで、土曜日11時30分まで行っています。どうぞご利用ください。（放射線技師長 芦原龍彦）

消化器内科

診療部長兼部長(内視鏡・超音波担当)・消化器内科部長 **廣畑成也**

特色

● 新しいメンバーが加わりました

現在常勤スタッフ6名、専攻医1名で診療を行っています。4月から草野 Dr が赴任しました。よろしくお願い申し上げます。

● 肝疾患センターが立ち上がりました

当院は兵庫県肝疾患専門医療機関に指定され、東播磨地区の肝疾患診療の中心施設として数多くの肝疾患症例をご紹介いただいています。前頁にもご紹介しましたように4月に肝疾患センターを立ち上げました。これからもあらゆる肝疾患に対応すべく当地域の肝疾患の中核医療機関としての役割を果たしていきたいと思っております。C型肝炎は経口剤のみによる抗ウイルス療法が導入されています。副作用がほとんどないため、従来治療が困難であった70歳を超える高齢者や4月より非代償性肝硬変にも新薬が使用可能となり、ほとんどの症例が治癒可能な時代になりました。B型肝炎も経口薬により、安全にかつ確実にウイルスのコントロールが可能となっています。B型・C型肝炎に関しましては年齢に関係なくご紹介いただければ幸いです。

● NASH(非アルコール性脂肪性肝炎)が増えています

最近メタボリック症候群を背景にしてNASHが増えてきています。糖尿病、脂質異常症、高血圧、肥満を合併している方で、脂肪肝があり軽度の肝機能異常が持続している患者さんの中に予想外に肝線維化が進行し、肝硬変や肝がんになってはじめて肝疾患の存在に気づく例が増えてきています。NASHの確診には肝生検が必須であり、生活指導も含め入院精査が必要でこのような方も積極的に精査・治療介入を行っています。また診断がつかない原因不明の肝障害(自己免疫性肝疾患など)や肝腫瘍症例も肝生検を積極的に行うことで確定診断を行い適切な治療に結びつけています。原因が不明な肝機能異常症例がございましたら遠慮なくご紹介ください。

● 内視鏡による早期癌の診断と治療が進歩しています

消化管癌の早期発見、悪性度・範囲診断に欠かせないNBI搭載内視鏡システムを3台常設し、常時拡大内視鏡にて精密な観察・診断を行っています。早期癌の場合、内視鏡的粘膜下層切開剥離術(ESD)で1週間の入院で治療可能です。緊急例を含め今後も積極的に内視鏡検査に対応してまいりますので、症例のご紹介をよろしくお願い申し上げます。

● 上部内視鏡検査をお急ぎの際は「当日胃カメラ枠」をご利用ください

上部内視鏡検査を希望される場合は「当日胃カメラ枠」を設けて迅速に検査をお受けいただけるようにしています。ホームページの「医療機関の皆様へ」「紹介患者予約システムご利用に際してのお願い」に予約方法がございますので、積極的にご利用いただければ幸いです。



■ 検査・治療実績(平成30年度)

上部消化管内視鏡検査	2650
緊急止血術	68
食道静脈瘤結紮術(EVL)	29
内視鏡的粘膜下層切開剥離術(ESD)	53
胃瘻造設術	16
下部消化管内視鏡検査	1699
止血術	27
ポリープ切除術(EMR)	608
内視鏡的粘膜下層切開剥離術(ESD)	16
ERCP	202
胆道ドレーナージ(ERBD/ENBD)	93
胆管結石砕石・除石術	85
EUS	61
EUS-FNA	9
腹部超音波検査	3758
造影腹部超音波検査	88
肝生検	135
肝炎抗ウイルス療法新規導入	75
経皮的肝ラジオ波焼灼術(RFA)	41
経カテーテル的肝動脈塞栓療法	76
肝癌分子標的薬導入	17

< 地域医療機関の先生方へ >

今後とも、安心かつ信頼して最適な治療を受けていただける医療を提供することを心がけていきたいと考えています。緊急例、診断困難例はもちろん、検査のみのご要望でも積極的に対応してまいりますので、ご遠慮なくご紹介いただければ幸いです。今後ともよろしくお願い申し上げます。

■ スタッフ

伊 聖哲	副院長兼肝疾患センター長・消化器内科部長	昭和57年卒
廣畑 成也	診療部長兼部長(内視鏡・超音波担当)・消化器内科部長	昭和60年卒
塚本 喜雄	内視鏡センター長兼消化器内科部長	平成6年卒
戎谷 力	消化器内科医長	平成15年卒
岡田 寛史	消化器内科医員	平成25年卒
草野 淳	消化器内科医員	平成26年卒
渡部 貴文	消化器内科専攻医	平成27年卒

リウマチ膠原病センター

リウマチ科部長兼リウマチ膠原病センター部長 **村田 美紀**

リウマチ膠原病センターは、甲南加古川病院リウマチ膠原病センターから2016年4月診療機能を引き継ぎ、現在に至っています。

■ 当センターの特徴

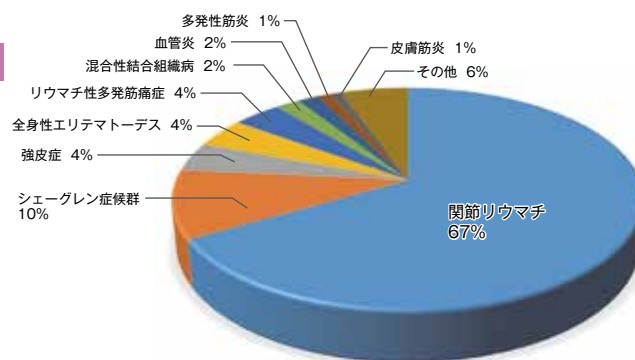
「断らないリウマチ科」をモットーに、兵庫県下全域、さらには近県府県からもご紹介をいただいております。過去10年で治療がめざましく進歩した関節リウマチですが、現在使用可能な生物学的製剤、JAK阻害薬を含めいづれの抗リウマチ薬も当院で処方可能で、生物学的製剤、JAK阻害薬を処方している患者様は605人になります。生物学的製剤の自己注射指導も経験と知識のある看護師が行っています。関節リウマチ以外にも多くの膠原病患者さんの加療も行っています。

■ 関節リウマチについて

かつては治らない病気といわれた関節リウマチですが、治療の進歩により寛解をめざせる疾患になりました。また、これまで、関節リウマチの骨破壊は徐々に進行すると思われていましたが、発症してから早期に急速に進行することが明らかとなり、発症早期の治療開始が大切であるといわれています。

当センターでは、月曜から金曜まで毎日専門医が診察をし、急を要する場合は当日のご相談もお受けしています。

また、関節リウマチの手術に関する相談も、手術適応の判断なども含めまして、どのようなことでも随時受け付けております。膠原病に関しても、はっきりと疑われる疾患名がなくても、否定できないような症状がある場合はぜひご紹介ください。



患者数3110人(2019.3月調べ)

■ スタッフ紹介

田中 泰史 (副院長兼リウマチ膠原病センター長・リウマチ科部長 昭和57年卒)

日本リウマチ学会専門医・指導医・評議員、
日本内科学会認定医、日本リウマチ財団登録医

塩澤 和子 (リウマチ膠原病センター次長兼リウマチ科部長 昭和51年卒)

日本リウマチ学会専門医・指導医・評議員、
日本内科学会指導医・認定医、日本リウマチ財団登録医

中川 夏子 (リウマチ科部長兼整形外科部長・リウマチ膠原病センター部長 昭和60年卒)

日本リウマチ学会専門医・指導医・評議員、
日本整形外科学会専門医、日本整形外科学会認定リウマチ医、
日本整形外科学会認定スポーツ医、日本手外科学会認定手の外科専門医、
日本リウマチ財団登録医

吉原 良祐 (リウマチ科部長兼リウマチ膠原病センター部長 昭和60年卒)

日本リウマチ学会専門医・指導医・評議員、
日本内科学会総合内科専門医

村田 美紀 (リウマチ科部長兼リウマチ膠原病センター部長 平成6年卒)

日本リウマチ学会専門医・指導医・評議員、
日本内科学会指導医・認定医、
日本リウマチ財団登録医

上藤 淳郎 (リウマチ科医長兼整形外科医長・リウマチ膠原病センター医長 平成18年卒)

日本整形外科学会専門医





県立加古川医療センター外来診療表

令和元年 10月1日(火)～

		月	火	水	木	金
総合内科	初診	石田	大北	日野	渡部	中村
消化器内科	1診	埴本(さかもと)	【尹(再診のみ)】	廣畑(午前)	【尹(再診のみ)】	埴本(さかもと)
	2診	廣畑	岡田	【担当医】	廣畑	戎谷(えびすたに)
	3診				白川	岡田
循環器内科	1診	福田(午前)	園田(午前)	岩田	片嶋	岩田
	2診	【禁煙】			【ペースメーカー】	
脳神経内科	1診	木村(午前)	【木村】	【木村(午後)】		辻(午前) 木村(午後)
糖尿病・内分泌内科	1診	飯田	日野	飯田	石田	日野
	2診		【立花】			
緩和ケア内科	入棟面談	担当医		担当医		担当医
	サポーターケア外来 (緩和ケア外来)	田中	担当医	田中	担当医	田中
生活習慣病		【尹(ゆん)】 肝炎	【戎谷(えびすたに)】 糖尿病・肥満	【大西】 糖尿病・肥満	【石井】 糖尿病・肥満	
		【福田】 禁煙	装具外来 (隔週:毎月第2,4火午前)			
リウマチ科	1診	田中	田中	田中	田中	担当医1
	2診	塩澤	塩澤	塩澤	塩澤	担当医2
	3診	村田	吉原	吉原	吉原	担当医3
	4診	中川	【上藤】	村田	村田	中川
腎臓内科	1診	午前				
		午後			加藤(1,3,5週) 【北浦(2,4週)】	
外科・消化器外科	1診	高瀬	衣笠	小林		高瀬
	2診	多田羅(たたら)	川嶋	門馬(もんま)	町田	【衣笠】
心臓血管外科	1診		担当医			担当医
脳神経外科	1診	担当医	森下	森下	担当医	相原
	2診		荒井	山川		担当医
乳腺外科	1診	石川	石川		石川	
	2診	担当医	担当医		担当医	
整形外科	初診 1診	原田	中川	高山	青木	中川
	初診 2診	岸本		市村	西原	
	再診 1診	【青木】	【上藤(午前)】	原田	【高山】	【担当医(午前)】
	骨粗鬆症	午後	【岸本】		【市村】	
形成外科	1診	櫻井	交代制	櫻井	櫻井	櫻井
	2診	北川		北川	北川	北川
	3診	【北野】		【谷口】	【北野】	【谷口】
皮膚科	初診/予診	【梅村】	【増田】	【高井】	【八木田】	【梅村】
	1診	増田	足立	足立	竹内	足立
	2診	八木田	梅村	竹内	増田	八木田
泌尿器科	1診	丸山	大場	田中	丸山	田中
	2診		担当医			大場
眼科	1診	午前		【薄木】	【薄木】	
		午後	薄木	薄木		【薄木】
	2診	徳川	徳川	徳川	【コンタクト(隔週)】	
3診	【秋田(午前)】	秋田	秋田			
リハビリテーション科	スポーツ整形	午後	【柳田】			
放射線科	IVR		担当医		担当医	担当医
	治療初診		担当医	担当医	担当医	担当医
	治療再診		【佐々木】		【川口】	【久島】

予約受付時間(拡大しました) 平日 9:00～18:30 土曜日 9:00～11:30(祝日除く)

※各科診療予定は変更される場合がありますので、あらかじめご了承ください。

※【 】は予約できませんが、特別に受診を希望される場合等は、ご連絡下さい。

※リハビリテーション科・スポーツ整形は、主に学生アスリートの方を対象とさせていただきます。

お願い 患者さんの待ち時間短縮のため、FAXまたはインターネットで初診予約をお取り下さい。